

Citizen activity information magazine

三浦市民生活向上会議会報

〒238-0102

神奈川県三浦市南下浦町菊名1258-3

三浦市総合福祉センター

電話 046-888-7347

発行：社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

発行責任者：出口 道夫

Vol.25

地域福祉活動計画団体ヒアリング実施報告・六

二十四号に引き続き、団体ヒアリングの様子を報告していきます。



石渡さんの様子；ご自身の活動から感じている問題を熱心に伝えてくださいました。

九月十九日 石渡さん（一名）

●今後望むこと

・障害のある子供が一人のときの見守りをしてほしい。地域の人たちからの静かな見守りがほしい。地域の子供会に入っていたのでまわりの人たちが障害を理解してくれていた。グループホームを作ることが夢。親が安心して任せられるグループホームがほしい。企業より公的機関の運営のほうが安心。三浦市もしくは社協で作ってほしい。

・三浦市の親の会は高齢化で運動が出来ない。設立のための費用は、四LDKで三千万円位かかるのを四、五人の親で負担するのは難しい。横須賀では親の会で市の補助を得てグループホームを作っている。また横須賀市は公営住宅のグループホーム化も考えているようだ。

・障害者の収入保障より、所得保障を考えて

ほしい、可処分所得を増やしてほしい。
・三崎中学校跡地を団体活動をサポートする拠点してもらえたらうれしい。普段は横須賀市汐入の市民活動サポートセンターで作業や印刷、会議をしている。
・施設などに対して親と同じレベルで子に対して丁寧な支援をして欲しいと思う。

●つながりの強い団体

・自閉症児者の親の会たんぼぼの会、横須賀の福祉を進める会、つくし会。その三者で知的障害者地域ネットワークとして防災と取り組みなどもある。
・横須賀の福祉を進める会での肢体不自由者の会とのつながり。
・障害者政策検討連絡会（横須賀市障害福祉課が事務局）に参加し、ゆうの入所施設建設について会で要望を市に伝えたりした。

・三浦市内では、城ヶ島やさいをつなぐ会。

十月七日 日ノ出長寿会（十六名）

●会の成り立ち、組織構成、活動内容

・もともとは日ノ出区の婦人部のあつまり。婦人部の人数が集まらないなど理由で婦人部と老人会を合体させたため婦人部の人たちがそのまま加入している。

る。

・加入したきっかけは「ほかの会で活動していたが日ノ出会で活動していた身内に代わりに参加」「近所から誘われて」「ずっと町内の会にはいって、子ども会、婦人会、老人会ときた」。

・会員五十七名で女性五十六名、男性一名。年齢は六十から八十七歳。活動には半数くらいが参加し、会費のみ払っている人も多い。参加しているメンバーは女性。

・役員会十五人で年六回会議。各ブロック六班の班長計十二人、福祉係一人。企画、食事当番を担当する。
・会費は年間千五百円。

・活動内容は盛んで行事が多く、年間三十回ぐらいの集まりがある。

・二か月に一回、第一月曜日に例会（月曜会）を二年前より実施。食事のほかに体操、歌、赤飯づくり、天草で寒天づくりなどを行う。

・例会と交互で二か月に一回、浜諸磯の老人センターにカラオケへ行く。

・毎週水曜夜は、復活させた三崎音頭を練習して運動会などで披露している。

・社会奉仕活動として、日ノ出会館の掃除年一回、氏神様の掃除年一回（元気な人のみ）。

・年間活動として2月演芸会、食事が年二回、新年会、忘年会、敬老会（今年は敬老会のあと勉強会）。

・夏の祭礼、夜市、夕市での手伝い。
 ・つながりの強い団体は、市老連、日ノ出町内のさくら会(老人より若い世代)、子ども会、青年会、婦人会。

●活動してよかったこと

・みんなで活動できて幸せ。話したり聞いたり。
 ・三浦市の歌や三崎の歌を歌ったり、踊ったりできる。
 ・ふれあうこと楽しい。
 ・近所との付き合いが楽しい。
 ・楽しみができた、いろいろな情報が集まる。

・ここで生まれてここで育てずと一緒。いろいろなことが楽しい。
 ・ボケないように会にできてきている。
 ・うちの中にいないで「出ていこう」と思っている。
 ・皆でやれることがたくさんあって良い。
 ・一人ではできないことが、会に加入すると仲間ができるのでやれることや行ける場所が増える。
 ・大勢集まってくる、ひと声かければみんなあつまる。
 ・子ども会のころからのつながりがある。

・会に出ていることでたとえばゴミの問題など言いやすくなった。
 ・雨戸が開いていなかったりすると様子を見に行く。

・声を掛け合う関係の人ができた。外で会った際に気兼ねなく挨拶ができる。顔を知っていてもこういつた会などで集まり顔を見ている人でなければ話しかけにくい。
 ・今では町内で誰が声をかけるか担当がある。

●活動していて悩んでいること

・困っていることない。
 ・男性の参加がないので男性会員の獲得。
 ・今まではアキバ山の清掃係は老人会が対応していた。体力的・人数的に大変になつてきたのでさくら会に移行した。担つてきた役割は重労働なので人数がいなかったり男手がないと大変。年2回行つてきた浜の掃除も大変で、こちらは今はだれも掃除をしていないと思う。

・もう少し若い世代と関わっていくにはどうしたらよいか考える。若い世代は仕事もしているので忙しい。
 ・会を続けていくこと自体が大事であり大変である。

●生活の困りごと

・体が思うように動かない
 ・足が悪いので買い物に困る。こどもも来て連れて行ってくれるが、一緒に行つてもらった時はなるべく急いで買い物を買わせたりしている。
 ・買い物に一人ではいけない。家族が行つてくれるので足りないものをメモし

てお願いしている。

・買い物に行くのが大変。子供と同居の家は子供が買ってきてくれるがそうでないと自分で対応しないといけない。子供が買い物に付き合ってくれても送ってもらわなれない場合も、子供の手を煩わせるのは嫌。
 ・タクシーに乗って市内あちこちに買い物へ行っている。
 ・三崎にあまりスーパーがない。三十分一本のフジスーパーのバスを利用して行く。

・病院が遠い。
 ・病院の送迎バスの本数が少ないので有料でもいいから数を増やしてほしい。
 ・通院には病院のバスを利用してはいるが、午後の診療だとバスがなくて困る、タクシーで行っている。
 ・路線バスの本数が少なくなったのでスーパーの無料バスを利用して出かけている。
 ・介護保険について、使うとしたらどれくらいかかるのか、どこに相談したらいいのわからない。

・災害の時、避難できない。前も逃げずにうちの中にいた。もし避難するにしても、いざとなったら何も持てないし、坂道で揺れると怖い。
 ・町内に空き家が増えた。
 ・ゴミ屋敷がある。気になつても近隣として何ができるか考えると、何もできないし、火事にならないかも気になる。

・猫が十四匹位いて困っていたので、隣組で結束してお金を集めて、猫の避妊をし、ようやく減ってきた。
 ●今後望むこと
 ・行政に空き家をどうにかしてほしい、個人のものだからどうにもならないか。
 ・三崎にスーパーなどお店がきたらうれしい。
 ・気軽に机を動かす、タンスの処分などの用事を頼める安価な有償ボランティアなどがあればとても助かる。あくまで助け合いの一つとして頼めるところがあればよいのではと思う。
 ・甘えないでできるだけ生きていたい。
 ・年を取ったら地域へ出てこないダメ
 ・何をするにも体力が一番。元気でいたいと思いたい。
 ・この地域は年を追つても住みやすいと思う。気にかけてくれる人、何かあったら助けてくれる人が周りにいる。近所のつながりがある地域だと思つたので安心。遠くにいる子供より近くの近所の人を頼りになる。つながりが大事。
 ・もっと社協の人たちの顔が見たい、どんな人たちがいるのか、若い人たちのか知りたい。

編集後記

計画策定の作業を通して、地域の皆さんと顔を合わせることで気づけしく思っています。今後も継続して機会を作っていきます(齋田)